

第43回 一橋植樹会 総会

平成28年5月21日(土) 11時

於 一橋大学佐野書院



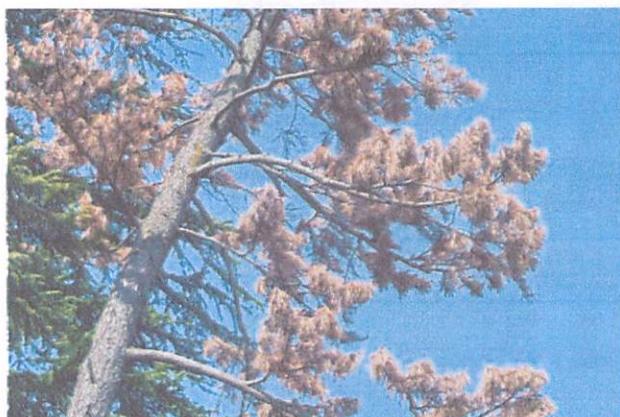
緑の中に佇む矢野二郎像

第43回 一橋植樹会 総会議案

第1号議案 平成27年度事業報告並びに
決算報告承認の件

第2号議案 役員改選承認の件

第3号議案 平成28年度事業計画並びに
予算承認の件



キャンパス内で進行する松枯れ

第1号議案 平成27年度事業報告

平成27年度も天候に恵まれ、スケジュール通り全ての作業を事故もなく実行することが出来ました。新生植樹会発足後12年が経ちました。この間、無事故で過ごせたことは参加する卒業生、学生が作業に常に使命感と緊張感を持って精励した結果と大変嬉しく、皆様のご尽力に深く感謝いたします。定例の整備作業はこれ迄通りですが、年2回となった休日作業は植樹、木を植える作業を中心になってきました。本来の「植樹会」名称に相応しい活動になってきました。大学と共に3年越しで検討してきた国立キャンパス緑地基本計画レビュー版が完成し冊子となりました。これからの中長期計画の指針となるものです。衰弱化や老齢化の進むキャンパスの緑の世代更新が急がれます。このような環境変化の認識を大学と共有し、相携えてこれを実現できる体制作りが必要との観点から大学とのコミュニケーションの緊密化を図ってきました。その成果の兆しが出て来たと思います。学生の作業参加が増加しているのは大変嬉しいことです。部活グラウンド周辺の整備を植樹会と共同で行う運動部も増え、学生の自主的な活動が拡がってきました。植樹会の会員増や活動の広範化に伴い事務処理も煩雑且つ増加傾向がありました。会の諸手続きの標準化を文書化したこと、事務処理を如水会事務局依存から内製化を図り大幅な経費削減に繋げることが出来たこと、極めて重要な事務改革が年度中に実行されました。これは偏に個人の能力と献身によるものですが、多彩な人材に恵まれたボランティア組織だからこそと改めて感じています。大学が作成するキャンバスマスタートップランのアドバイザリー・グループからキャンパスの緑と植樹会活動に付いて意見聴取を受けました。我々の植樹会活動を高く評価しています。これ迄の先輩諸兄の努力の賜物と感謝し、今後の活動に繋げて行きたいと思います。

1. ボランティア作業

(1) 活動実績

予定通りに年間13回の定例作業（KODAIRA 祭と一橋祭の両委員会に協力する特別清掃作業を含む）を実施することができました。参加者は延べ1,641人と前年比25%ほど増加し、学生179人が参加したラグビー場整備を加えると1,800人を超える人達が母校の緑を守るために汗を流したことになります。作業の内容としては、目立ちやすい図書館前の中央庭園の植え込みの剪定、芝刈り、雑草・蔓等の除去並びに東キャンパス丸池周辺の梅の剪定、全面草刈り、丸池内の清掃等を2~3回実施しました。東西プラザの周辺整備では植え込みの剪定、不要木の伐採、雪で折れた枝の処理、落ち葉の清掃等も行いました。ホッケー場の東では、伐採された跡地の除草、不要木の除去を行い新たな植樹に備えました。矢野二郎像周辺のツツジの植え込みの整備、経済研究所、第一研究館、イノベーション研究セ

ンター等建物周辺の植え込みの剪定、雑草、蔓、不要木の処理にも当りました。

(2) 休日作業

春秋年2回実施と決まった今年度は6月20日(土)と10月17日(土)に実施、それぞれに120人と143人の多数の人に参加頂き、作業の実態を体験して貰うことが出来ました。未だ、仕事を抱える現役の卒業生にリビーターが増え、又、新規の参加者も増えつつあるのは休日作業を設けた趣旨より大変喜ばしいことと受け止めています。

(3) 植樹作業

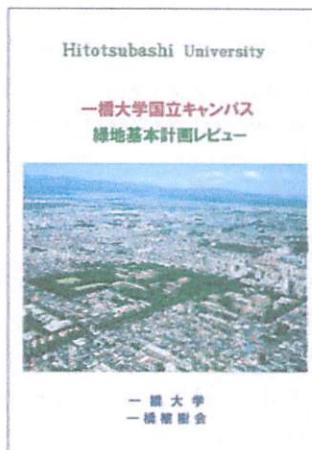
今年度は2回の休日作業日を含め、下記4回の作業日に実施しました。

- 5月15日 東キャンパスのマーキュリー・タワー東にシラカシ2本の補植とイロハモミジ1本移植。
6月20日 西キャンパスの陸上競技場と野球場の境にアカマツの苗木8本を移植。
10月17日 西キャンパスの第2研究館北側にオカメザクラの苗木4本を移植。
3月11日 西キャンパス南西の如意園道場の周辺にオカメザクラの苗木8本に陽光の苗木1本を移植。

大学が2年前に購入し、苗床で育成中の苗木は成長し過ぎる前に移植してやる必要もあり適期を考慮しながら今年度は結果として4回実施となりました。尚、毎年卒業生を支援して実施する卒業記念植樹は1月22日の定例作業に先立ち、如意園道場の前に寒緋桜の一種、ギヨイコウを植えました。

(4) 国立キャンパス緑地基本計画レビュー版冊子の完成

平成24年度より3年越しで実施した検証作業の結果は12月末に大学のご協力により冊子完成となって結実しました。これを活かしながら次年度の植樹を含む作業計画策定の為、2月14日に福嶋顧問にご同行頂きキャンパス内を視察しながら、主な11か所の新管理計画案を練り上げ、大学施設課に提示、協議に入りました。着実に進めて行きたいと思います。



(5) 作業後交流会

作業後の交流会は、新生植樹会発足当初は過酷な長時間労働の後のお互いの慰労の場であったと思われますが、毎回、平均して100人近い学生の参加する現在ではその存在

意義が根本的に変わりました。殆どの学生は会員ではありませんが、ボランティア作業に参加し、労働の楽しみを体験した後に軽食が供される交流会で卒業生と活発に歓談しています。交流会は年齢を超えて同窓生が一体感を醸成する貴重な場として大いに役立っています。それが又新しい学生参加者を生み出す源泉にも繋がっています。季節の特徴を生かした企画、質素ながら参加者に楽しんで貰えるよう努めました。

2. 学生の主体的活動の推進

学生理事は限られた時間の制約の中で役割分担をしながら、会の運営・活動に協力しています。中でも選ばれた学生理事は幹事として毎月の幹事会にも出席し、会の運営について理解を深めながら学生の立場から都度提言をしてくれています。

(1) 植樹会のアピールと学生の作業参加の促進

年々学生の作業参加者数は増え続けていますが、これは一橋祭運営委員、KODAIRA 祭実行委員が当会の学生理事を兼任し、大学祭委員会と植樹会の橋渡し役を果たしていることも大きなプラス要素として働いています。彼等、学生理事が両委員会メンバーや体育会系部活メンバーに行ってきました作業参加呼びかけや既参加学生のリピーター化に努めてきたことが実を結んでいます。学生理事誕生以来一時期続けた学生の植樹会員を増やす努力は結果的に空振りに終わりましたが、ボランティア作業の大きな戦力として大勢の学生参加者を確保できたことはそれを補って余りある成果と考えます。

(2) 学生植樹会の組織化

学内団体として正式に認められた学生の「一橋植樹会」は規約を制定し、一応の組織化がなったものの今後もその維持・拡充を図っていくことが必要です。

(3) 学生理事の自主的活動

学生理事の発案でスタートした「くにたちのお花畠」の運営は後輩の学生理事が受け継ぎキャンパスの一角に彩りを添えています。KODAIRA 祭及び一橋祭での植樹会ベースで実施する「森のクラフト教室」への積極的参加も含め、学生理事の積極性が目立ち喜ばしいことです。

3. 組織強化活動

(1) 会員の状況

植樹会活動の基礎の安定化を図るために、引き続き新規会員の増強に努めました。最終的に、134人の新規入会に対し、物故者を含む退会69人、見做し退会（3年連続年会費不払い）35人を差引いた結果、実質的な増加は30人でした。勧誘活動の主な場は、5月のホームカミングデー（以下、HCD）と9回に亘る周年大会で合計72人に上る方に新規入会頂きました。学生理事を含む幹事会メンバー全員が一丸となって活動した成果です。

(2) 組織強化

昨年もご報告申し上げましたが、近年、一部会員から年会費不払いの傾向が続き「見做し退会」として処理せねばならぬ人数が高止まりし、積極的な入会勧説の努力と成果にも拘らずその一部を相殺する結果に繋がっていることは真に残念です。会員のご理解とご協力を得るべく一層の努力をして参ります。又、定例作業参加者の高齢化も会の運営・活動に影響を及ぼしています。新生植樹会を立ち上げ、そしてそれを引き継いだ世代の昭和35、37年卒のOB参加者数が大きく減る中で、昭和40年前後の年代がリピーターの中核へと移行していますが、これらに続く世代の層が薄いという難題に直面しています。今後は昭和40年代後半の参加者を積極的に募ることが急務になりました。

4. 広報活動

(1) 如水会々報とホームページ

「植樹会通信」は引き続き如水会々報内に2ページを確保し植樹会の主な活動、主要トピックスを報告し約3万4千人の如水会員にアピールすると共に、8月を除き毎月更新するホームページに於いても内容の一層の充実に努めました。ホームページに付いては昨年3月より始めた1,000人を超えるメールアドレス保有会員に対する更新通知配信システムも軌道に乗り、ホームページの一日平均閲覧回数は大幅に増えました。

(2) その他の広報活動

引き続き、学生向けに学生班と連携し「一橋新聞」「ゼミエラ」に広告掲載を継続し、活動への参加呼び掛け、活動の様子を広報することに努めると共に、KODAIRA 祭、一橋祭、HCD 等のイベント時にも情宣と参加・活動を行いました。

5. 寄付講義「緑の科学」

過去3年間の経験と反省を踏まえながら受講生に強い興味を持って貰うよう講義の内容に更に工夫を凝らしました。実験やフィールドワークは生物など理系の分野に跨る内容で大学の講座の中でも異色の講座として学生からの評価も高く定着した感があります。最終受講者数は61人と前年の79人を下回りましたが高水準を維持しています。又、本講義を通じて受講生が大学キャンパスの素晴らしさを知ると同時に植樹会活動の意義を認識することにも繋がっています。

6. 前年度の「あり方研究会」より答申された施策の検証

今年度は「あり方研究会」の開催は無しに終わりましたが、前年度に答申した施策が今年度にどの程度の実効を挙げたのか検証してみました。顕著な効果の現れたのは以下の2件です。

(1) 事務作業費抑制対策

近年、如水会事務局に委嘱する事務作業費用の支出が右肩上がりと固定費増に苦慮していましたが、事務作業全般

の見直しから事務効率化と、従来如水会事務局に委嘱していた実務を幹事自身で処理する内製化を進めた結果、約70万円の経費減を実現しました。只、PCのスキル不十分の幹事の多い中でこの体制を長期に亘り継続できるかの懸念は残ります。

(2) ホームページの刷新

初期投資には約27万円をかけて、6月からHP画面の枠組みを大きく広げると同時に読み易いように大きな文字に変更、改善しました。スマートフォンからのアクセスも可能になりました。HP更新を請け負う制作会社とは契約条件を見直し、変更後のランニングコストを引き下げる改定を行いました。

行いました。結果として支出は対前年比約12万円減少し、約22%のランニングコスト節約に繋がりました。初期投資も当初の目論見通り2年で回収出来る見込みです。

7. キャンパス外活動

(1) 6月17~18日の二日間、如水会の管理する箱根坐忘山荘庭園の手入れを今年度も福嶋顧問ご指導の下、植樹会から参加した12人が汗を流し夏を前に広大な庭園を蘇らせました。

(2) 毎年続けて来た学外研修は諸般の事情より実施出来ませんでした。

(1) 作業参加者の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	対前年比増減
卒業生	472	569	578	9
教職員	46	44	36	-8
学生	652	699	1,027	328
計	1,170	1,312	1,641	329
1回当たりの 平近作業参加者数	98 (12回)	101 (13回)	126 (13回)	25

*平成27年度は天候に恵まれ、休日・定例作業11回（8月を除く）にKODAIRA祭・一橋祭準備の2回を加え合計13回の作業をおこなった。

(2) 会員数の推移

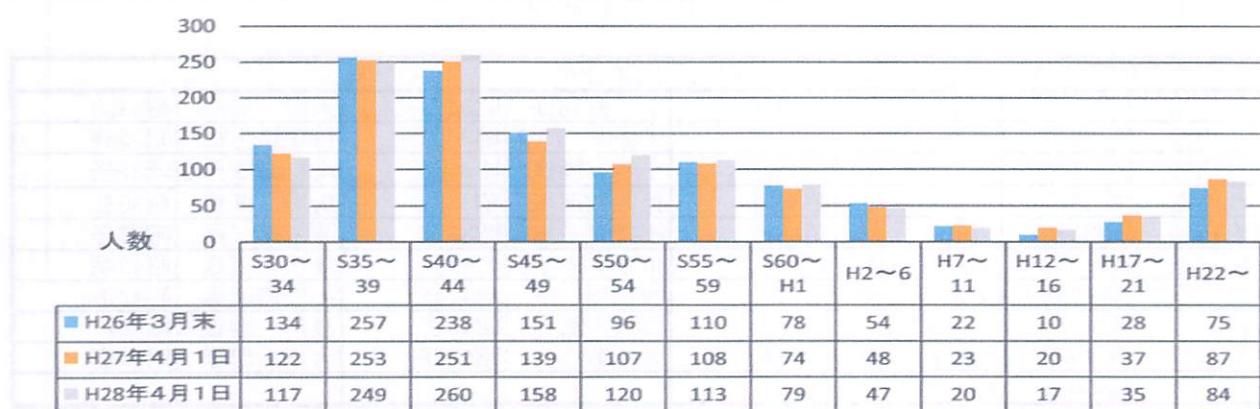
会員種類	平成26年3月末	平成27年3月末	平成28年3月末	対前年比増減
卒業生	1,324	1,334	1,363	29
教員	47	48	49	1
職員	34	36	36	0
(小計)	1,405	1,418	1,448	30
団体	14	14	15	1
特別	2	2	2	0
学生	29	24	23	-1
合計	1,450	1,458	1,488	30
(有料会員)	1,384	1,395	1,436	41
(免除会員)	66	63	52	-11

*免除会員⇒卒業後2年未満の卒業生会員+特別会員+学生

*平成28年度3月末現在、個人会員（卒業生、教員、職員）1,448名の内、終身会員数310名

(3) 卒業会員年次ブロック別会員推移表

＜卒業会員年次ブロック別会員推移表＞



収支計算書

平成27年度収支決算案 及び 平成28年度予算案 (単位:千円)

科 目	平成26年度	平成27年度	平成27年度	比率(%)	平成28年度
	実績	予算	決算案		予算案
I. 収入の部					
1. 会費	3,800	4,069	3,903	96	4,046
1) 団体	153	150	170	113	130
2) 個人	3,647	3,919	3,733	95	3,916
2. 如水会支援	600	600	600	100	600
3. 大学後援会	150	150	0	0	150
4. 特定収入	438	501	551	110	501
1) 総会会費	303	300	300	100	300
2) 寄付	134	200	250	125	200
3) その他	1	1	1	1	1
5. 卒業記念植樹	18	29	4	14	0
当期収入	5,006	5,349	5,058	95	5,297
前期繰越	2,210	2,036	2,036		2,585
収入合計	7,216	7,385	7,094	96	
科 目	実績	予算案	決算案	比率(%)	
II. 支出の部					
1. 学園祭賛助・参加費	388	430	400	93	430
2. 組織強化(学生)	289	370	217	59	320
3. 集会所備品	117	110	73	66	110
4. 組織強化(一般)	145	230	231	100	180
5. HPメンテナンス	553	470	669	142	400
6. 広報用印刷物	310	340	225	66	0
7. 総会費用	1,009	1,045	770	74	810
8. 植樹費・管理費	86	100	45	45	800
9. 学生植樹支援	81	160	99	62	160
10. 作業道具・備品	95	105	73	70	220
11. 保険料	86	95	130	137	130
12. 会議費	169	185	152	82	170
13. 作業後交流会	956	1,020	963	94	995
14. 事務・通信連絡費	507	275	118	43	250
15. 寄附講義運営費	285	320	226	71	400
16. 雑費	104	115	118	103	135
支出合計	5,180	5,370	4,509	84	5,510
次期繰越	2,036	2,015	2,585		2,372

一般会計 貸借対照表		終身会員会計 貸借対照表	
資産の部	負債の部	資産の部	負債の部
普通預金 2,585	普通会費前受金 0	普通預金 1,719	終身会費前受金 6,719
未収金 0	繰越金 2,585	定期預金 5,000	その他 0
合計 2,585	2,585	合計 6,719	6,719

注1) 雑費118千円:りそな銀行、ゆうちょ銀行、如水会カードDC手数料を含む。

平成27年度寄付者リスト寄附総額250,000円 (個人・団体合算)					
仲元敬子様 昭31法	真栄田修様 昭34経	布川直利様 昭34社	天野 晃様 昭34商		
伊藤正徳様 昭34商	永井 等様 昭34法	伊藤進一郎様 昭35商	持田恒男様 昭35経		
新田良昭様 昭35経	高山卓也様 昭35経	小峰 隆様 昭35経	茂木七左衛門様 昭35経		
田中政彦様 昭35経	國持重明様 昭35経	鈴置牧郎様 昭35社	馬場 春様 昭35社		
町野宏祥様 昭35社	田中由美子様 昭35家	國持良子様 昭35家	藤木隆三様 昭37経		
坂田時恩様 昭40商	関戸康男様 昭40社	小塙塙武寿様 昭41商	津田正道様 昭42商		
小杉俊二様 昭42商	伊東新祐様 昭42経	西村周一様 昭42経	小野俊彦様 昭42法		
保坂証司様 昭44社	今久保哲大様 昭45商	松田秀徳様 昭45法	淺川 港様 昭46社		
城 良導様 昭49商	関戸良行様 昭55商	匿 名 昭55経	大畠 忠様 昭55経		
中山直子様 昭56法	昭和41年会 団体				

監査報告書

平成28年4月12日

一橋植樹会会長 八藤南洋殿

私どもは、一橋植樹会の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの事業年度における理事の業務執行状況を監査するため、理事から業務の報告を聞くなど必要と認めた手続きを実施しました。

また、同事業年度の収支及び財産の状況を検討するため、決算報告書、すなわち収支計算書および貸借対照表並びに関連書類について監査を行いました。

監査の結果、理事の業務の執行は適切であり、また、上記決算報告書は収支の状況を正しく表示しております。

一橋植樹会

監事 小池 良 

監事 土方周明 

役職	氏名	卒業年・学部	役職	氏名	卒業年・学部
会長	津田 正道	(昭42商)	"	善宝 俊夫	(昭53経)
顧問	福嶋 司	東京農工大・大学院名誉教授	"	奥村 太久実	(昭61経)
"	田崎 宣義	名誉教授(昭51博社)	"	田所 亮子	(昭63経)
"	閔 統造	(昭41社)	"	田山 毅	(平6経)
副会長	西村 周一	(昭42経)	"	望月 健一	(平8経)
"	徳永 興亞	(昭42商)☆	理事	蓼沼 宏一	学長(昭57経)
"	筒井 泉雄	大学教育研究開発センター長	"	辻 琢也	副学長
理事	石原 一子	(昭27学)	"	村田 光二	副学長
"	河野 正次	(昭31商)	"	米山 高生	商学研究科教授(昭57博経)
"	辻巻 孝	(昭34商)	"	林 大樹	社会学研究科教授(昭59博社)
"	國持 重明	(昭35経)	"	桑原 靖	大学事務局長
"	土田 将夫	(昭37商)	"	永木 康博	大学財務部長☆
"	旗野 友夫	(昭38経)	"	三好 毅	大学施設課長
"	長谷川 輝夫	(昭39社)	"	加島 輝夫	大学学生支援課長
"	八藤 南洋	(昭40経)	"	山本 哲也	大学総務課長
"	関戸 康男	(昭40社)	"	長野太祐	(社4年)
"	栗田 克彦	(昭41商)	"	笠原 俊宏	(商4年)
"	樋口 文夫	(昭41法)	"	堀池 尚希	(経4年)
"	佐藤 征夫	(昭42経)	"	加古 息吹	(社4年)
"	川村 忠太郎	(昭42法)	"	村本 昌樹	(経4年)
"	高塙 恭幸	(昭43経)	"	佐々木 龍也	(法4年)
"	大池 明	(昭44商)☆	"	岡部 光	(社4年)
"	五島 康晴	(昭44経)	"	中村 朱里	(法4年)
"	保坂 証司	(昭44社)	"	鈴木 操稀	(商4年)
"	柳原 和道	(昭44社)☆	"	籾本 文美香	(商4年)
"	樋浦 嘉次	(昭45経)	"	瀬野 公也	(商3年)☆
"	川崎 勝悟	(昭46経)	"	宮本 裕樹	(経3年)☆
"	金子 彰	(昭46法)	"	堂本 強介	(社3年)☆
"	岩城 悅子	(昭47商)	"	下野 航太郎	(経3年)☆
"	若月 一郎	(昭47商)	"	岡田 航汰	(社3年)☆
"	林 利治	(昭47経)	"	加藤 夏海	(経3年)☆
"	高橋 治夫	(昭48法)	"	山口 豪輝	(社3年)☆
"	高橋 忠明	(昭49商)	"	石倉 愛美	(社3年)☆
"	河村 進	(昭49経)	"	加藤 瑞季	(商3年)☆
"	山口 久基	(昭49法)☆	監事	小池 良	(昭52商)
"	秦 哲也	(昭50社)	"	土方 周明	(昭52商)
退任役員	山崎英司財務部長	高間伯夫(昭45商)	高橋正明(昭50法)		
	増田実佳(法4年)	窪田莉奈(商4年)	城和世人(社4年)		
	岸 直之(法4年)	高輪一輝(社4年)	香川祐樹(商4年)		
	中村嘉希(社4年)	笹口健太(社4年)	佐藤翔一(経4年)		

第3号議案 平成28年度事業計画

基本方針

1. 大学執行部及び担当部局とのコミュニケーションを引き続き密にして、相互の理解を深め方針を確かめ合いながら計画を立案し実行して参ります。中でも、大学が作成中のキャンパスマスター・プランと昨年度完成した「国立キャンパス緑地基本計画レビュー版」との整合性について大学と協議しながらより理想的な新植栽木計画を策定していくことが重要と考えて居ります。
2. 昨年度に続き、「植樹」を推進すべく骨太の方針として打ち出します。近年、老齢化や衰弱化の進んだ木々は台風、降雪の時には自然倒木、或いは大小の枝の落下という危険な現象を見せてきました。伐採して補植するキャンパスの世代更新を徐々にながら着実に進めると同時に武蔵野の雑木林の再生に努めます。
3. 作業の効率性追求の狙いより刈払機等の活用が進み、今後も更に進める所存です。作業者の安全第一を常に考えて機械利用上の安全講習会も実施して参ります。
4. 周年大会に於いて新規会員獲得に大きな成果を挙げる一方で毎年「見做し退会」を含めた退会者も多く、この対策として植樹会通信やHPの充実により会員のご理解を得るべく努めて参ります。
5. 学生団体との共同作業を拡大し、学生参加を促進します。



〈平成27年6月 休日作業で学長も植樹に挑戦〉

具体的活動計画

1. ボランティア作業

「緑地基本計画レビュー版」完成の後、これに基づき大学に提案した「新管理計画案」について大学施設課とワーキング・グループを立ち上げその進め方に付いて検討を行い、速やかに実施に移して行きたいと思います。

- (1) 定例の月例作業と交流会は例年通り13回を予定します。その内、6月25日(土)、10月29日(土)の2回は、大学のご協力を得て休日作業として実施する予定です。
- (2) 大学祭のみならず体育会部活施設や諸クラブ周辺の整備作業への支援を継続・拡大しながら学生の作業参加増に努めて参ります。
- (3) 施設課と立ち上げた合同のワーキンググループにより策定される今年度の植樹を中心とした計画を実施して参ります。計画立案に際しては、緑地環境の経年変化をも把握し弾力的に対応し、成果の把握に努めます。
- (4) 昨年度の課題として取り上げた“松枯れ蔓延の防止”は数百万円単位の予算が必要と分かりました。植樹会の資金力では残念ながら対応しきれませんが、対策費として約50万円を予算化しました。大学側には英断を期待します。尚、植樹会としては伐採したアカマツの跡地に植樹を行うことや、武蔵野の雑木林に相応しい、コナラ、クスギ等の苗の購入費として約30万円を予算化しました。出来ることから検討を進めて参ります。
- (5) 機械・用具類の充実と保守点検に留意しつつ、作業の安全を第一としながらも作業効率の向上に努めます。



〈弱った古木から落下した枝の処理も大変です〉

2. 学生の主体的活動の推進

- (1) 学生理事という役職は平成17年卒業生（2名）に始まり今日に至る迄毎年新しい学生理事の誕生により縦の糸が出来て来ました。植樹会の学生理事には卒業後も、「植樹会は心の故郷」としての想いを共有する集団となって欲しく、願わくば「未来の植樹会幹事団」に進化してこの貴重な人脈の組織化の一助となって貰いたいと期待します。

(2) 学生の作業参加への働きかけの継続

年々増え続ける学生の作業参加者は定例のボランティア作業的一大戦力に成長しました。従来通り、KODAIRA 祭実行委員会、一橋祭運営委員会、クラブ等との連携を保ちながら更に実効を上げるべく努めます。PR活動の一環としてフェイスブックの活用も図ります。

(3) 新たな魅力づくり

引き続き、「くにたちのお花畠」の維持、KODAIRA 祭及び一橋祭への積極的参加を核に新たな魅力づくりを企画、活動します。

大学祭参加に際しては会場に展示する写真パネルの更新をします。

(4) 卒業記念植樹については有意義なイベントと位置付けている一方で毎年参加者が少なく、一度、継続の是非について検討を行います。継続と決めた場合は参加者を増やすべく実施時期の見直しを含め早期に計画立案に入ります。



〈平成27年度卒業記念植樹（如意園道場前）〉

3. 組織強化活動

毎年度、決算監査の際には監事より、年間500万円台のボランティア活動を行う団体としては繰越金が200万円台と財政基盤が未だ脆弱とのご指摘を受けて居ります。支出には工夫しながら一方で収入増を図るべく入学20周年以降



〈周年大会での新規会員勧誘活動〉

の周年大会を対象に新規会員勧誘に取り組んで来ました。成果は飛躍的なものではありませんがその効果は着実に現れています。今年度も会員数増による年会費収入増と同時に広範囲に寄付をお願いして参ります。

数年前から発生し始めた見做し退会者は毎年、コンスタントに30人台を数えます。母校の為にとの想いから入会登録された方達に対し忍耐強く会費納入を訴えつつ見做し退会者数漸減に努めて参ります。

一方で、長年ボランティア作業にリピーターとして参加、貢献して下さった会員が徐々に高齢化、作業現場では新しい担い手が待望されています。徐々に昭和40年代半ば以降のリピーターが増えつつありますが未だ十分には程遠い状況です。大学のご理解とご協力により実現した年2回の休日作業も活用しながら昭和50年代初期の卒業生もターゲットに含めて新戦力の増強に努める所存です。

4. 広報活動

(1) 如水会々報・ホームページ

引き続き内容の充実、植樹会活動・キャンパスの状況を生き生きとお伝えするべく努めます。

(2) その他の広報活動

学生向けの広報は引き続き学生班と連携し活動への参加呼び掛けます。

5. 寄付講義「緑の科学」の継続

過去4年間の経験と反省の積み重ねにより講座内容は略完成に近づいたと判断します。未だ、新機軸を打ち出す余地もありますが、来年度から大学が4学期制への移行を決めて居り、これに伴い講義の仕方にも大幅な変更が求められる見込みの為、今年度は前年度の踏襲と致します。

6. 「あり方研究会」の継続

今年度は新幹事が5人誕生し、植樹会幹事会組織に新しい血が入ります。新幹事を交えて組織し、未検討の課題にも切り込みたいと考えています。

7. キャンパス外活動

(1) 7月上旬に玉原高原でのブナ林再生事業に有志による参加を予定しています。

(2) 6月上旬に恒例の箱根坐忘山荘の庭園の手入れを行う予定です。

平成28年度一橋植樹会幹事会組織（案）

1. 企画・統括班 正) 西村理事

◎企画・総務グループ

幹事 正) 大池理事候補、高橋（忠明）理事

担当：事業計画立案、予算・決算、幹事会、総会、大学・如水会折衝窓口

◎組織・統括グループ

幹事 正) 河村理事、林理事

担当：組織強化、卒業生・教職員・団体・特別会員（除学生）の増強、会費の管理、会員名簿の作成と改訂

2. 学生班

幹事 正) 保坂理事、長谷川理事、秦理事

担当：学生会員の勧誘、作業参加促進、交流会活性化、KODAIRA 祭・一橋祭への参加、学生会員の名簿管理、学生植樹会への支援

3. 広報班

幹事 正) 橋浦理事、高場理事、若月理事

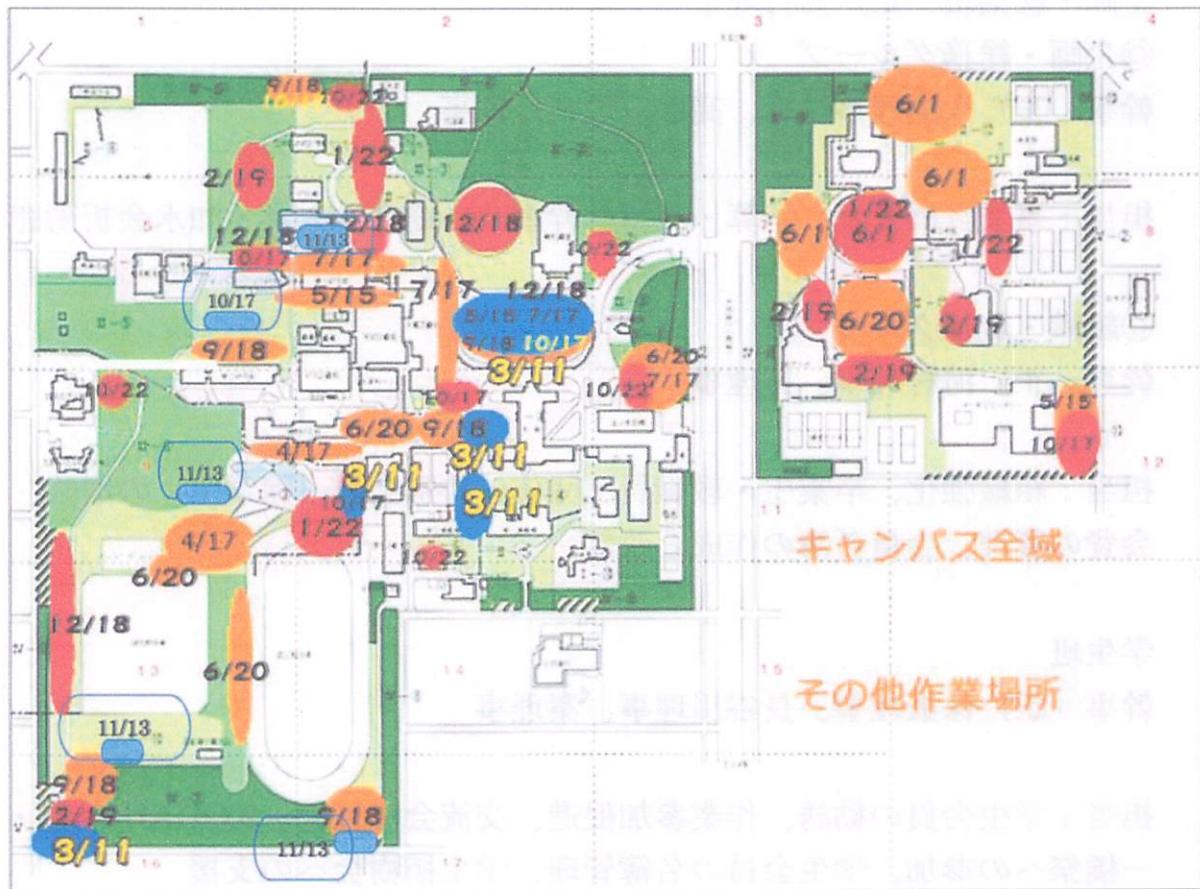
担当：HP の更新及び案内、如水会々報への投稿、小冊子・チラシの作成、学内誌との連携

4. 作業班

幹事 正) 徳永理事候補、樋口理事、五島理事、柳原理事候補、川崎理事、山口理事候補、善宝理事

担当：定例作業の企画・案内と実施、用具備品の購入・管理、安全対策、交流会の準備と実行、植樹計画の立案、保険（傷害・自賠責）に関する事項。

以上



【平成27年度キャンパス全域活動エリアマップ】

平成28年度休日作業日程：6月25日（土）、10月29日（土）

その他の月は原則として第3金曜日に開催ですが、大学のスケジュールとの兼合いで異なる場合があります。

詳細は、植樹会のHP「一橋植樹会」で検索してお確かめください。

皆様の参加をお待ちしています。



Let's Green & Clean 一橋植樹會